

～岩手だからこそできる教育 やるべき教育～ いわての復興教育

今年1月の能登半島地震。また8月の日向灘沖で発生した地震。さらに台風5号、10号による記録的大雨や防風による被害。いつ起こるか分からない、そして私たちの日常生活を脅かす災害に対して、より一層アンテナを高くし、想定できる最善の対応を整えておくことや、想定を超える事態にも適切に対応できる力がますます求められます。

「いわての復興教育」は、東日本大震災で学んだ教訓を学校教育の中に生かし、未来を創造していくために、学校教育の根幹に据え、力強く生きていく子どもの育成をねらいとしています。

管内復興教育研修会

令和6年9月3日(水)に東山地域交流センターにおいて『管内復興教育研修会』を行いました。講義「いわての復興教育の推進について」、講話「未来の命を守るために～東日本大震災の記憶～」情報交流・協議を通して、「いわての復興教育」の理念等を確認し、未来志向の復興教育の在り方を考える機会となりました。



講話「未来の命を守るために ～東日本大震災の記憶～」

講師：一関市教育研究所
学習指導専門員 鈴木 秀行 氏

東日本大震災発生時、陸前高田市立気仙中学校に副校長として勤務し、経験した避難の様子、そしてその後の復興への足取りを、当時の資料に基づき実体験を交えてお話いただきました。

子供の命を救うために、子供たちの未来をつくるために、学校として何ができるのか、復興教育の重要性を再認識することができました。

<参加者の感想>

- あの日のこと、そしてそこからの学校再開。鈴木先生のお話を聞き、改めて子供たちに命を守ることの大切さを教え続けたいという思いを強くしました。
- 「準備をイメージできないことはマネージできない」この言葉から自身の復興教育の捉えを改めて考えることができました。情報があふれている現代。子供たちは、自分の興味のある情報だけに囲まれ、想定外のことには対応できない傾向になりつつあるのではないかと危惧しています。学校でしかできない学びとして、「自分の命を守る」学習を行っていきたいと思います。
- 「当たり前にあることが、当たり前ではない」ということ、「子供たちには困難を乗り越える力がある」ということを忘れないようにしたいと思いました。まずは、子供たちに今日の講話について伝えたいです。

講義「いわての復興教育の充実について」

講師：岩手県教育委員会事務局 学校教育室
産業・復興担当
主任指導主事 桂 康博

「いわての復興教育」の理念や定義、学校経営への位置付け、副読本の活用方法等についての理解を深めました。

「いわての復興教育」が目指すものは郷土を愛し、その復興・発展を支える「ひとつづくり」であるということを確認し、3つの教育的価値「いきる・かかわる・そなえる」を具現化するための方策を学ぶことができました。

<参加者の感想>

- 自分の経験も含めた誰かの「語り」を、別の誰かに「継ぐ」という学習(授業)や活動を続けていく必要があることを痛感しました。そのためにも本校の復興教育の計画を見直していきたいです。
- 私自身、大震災発生時、小学生で体験していなかったこと、内陸に住んでいたことから、これまで復興教育に自信をもって臨むことができていませんでした。しかし、講義内容から、日々の教育活動を通して3つの教育的価値を育み、子供たちが「どんな時でも生き抜く力」を身に付けられるようにしたいと考えることができました。
- 復興教育を推進していくために、子供たちの実態を踏まえ、他教科等や学校行事と関連させながら取り組み、子供たちが復興教育を「自分事」として捉えることができるようにしていきたいです。

実践交流「各校における復興教育の推進」

「3つの教育的価値、21の項目」を視点に自校の復興教育計画をチェックし、講義内容や他校の取組を参考に、自校の計画について改善の方向性を見出す機会となりました。

<参加者の感想>

- 本校の取組を改めて考えていかなければならないと感じました。ヒントをたくさんいただきました。
- 他校の復興教育計画と見比べ、自校の重点項目を精選していく必要があると感じました。